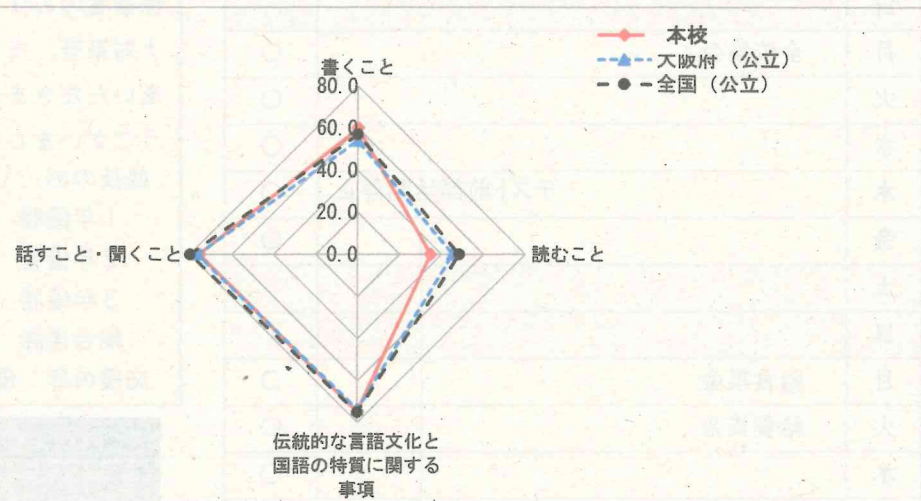


調査実施要領にありますように、本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であり、学校として以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。保護者のみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【学力状況調査】 <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

【国語】



全体的な状況

全国平均にやや及ばずという結果だったが、「書くこと」の領域においては全国平均を上回る結果だった。一方で、「読むこと」の領域において全国平均を下回る結果となった。無解答率に関しては、概ね全国平均より低いといえる

成果

「書くこと」の領域において全国平均を3ポイント上回る結果となり、授業で行っている「自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書く」ことができるようになっていると考えられる。

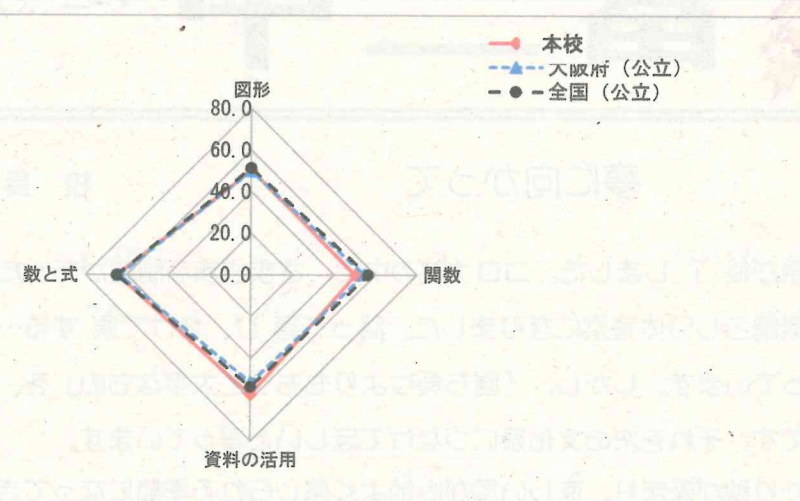
課題

・「読むこと」の領域においての正答率が低い。
・場面の展開や登場人物の心情や行動を捉える力に課題がある。
・文章に表れているものの見方や考えを捉える力に課題がある。

課題解決に向けた取り組み

・授業において特に文学的な文章の場面の展開や登場人物の心情や行動に着目して、読む活動を増やす。
・文章に表れているものの見方や考えを捉えるために、語彙の拡充・定着を促す活動を増やす。

【数学】



全体的な状況

・概ね全国平均と同等といえる結果であり、「資料の活用」の分野においては全国平均を上回る結果であった。その一方で、「関数」分野において平均を下回る結果となった。無解答率に関しては、概ね全国平均より低いといえる。

成果

・「数学的な技能」の分野において全国平均を5ポイント上回る結果となり、毎時間の基礎基本の復習が定着している結果だといえる。
・「資料の活用」の分野において全国平均を4ポイント上回る結果となり、事前の復習の時間による学習の成果が見られた。

課題

・「関数」分野においての正答率が低い。
・数学的な見方や考え方を問う問題の正解を導くことや説明をする問題へのアプローチの仕方に課題が見られる。

課題解決に向けた取り組み

・現在実施している授業開始時の復習問題への取り組みを継続し、少人数授業による学習の定着をはかることで、全体的な学力の底上げを目指す。
・記述式問題をはじめとする応用問題に触れる機会を増やして論理的思考を養っていく。

【学習状況調査】

状況が良好な主な項目

項目	本校	府	全国
自分には、よいところがあると思いますか。	83.5	72.5	76.2
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100	94.4	95
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	85.9	72.3	74.7
課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいましたか。	95.3	78.2	81

全体的な状況

肯否定を問う全28項目中19項目で、大阪府・全国平均を上回る肯定的で前向きな回答となりました。特に学校行事への積極的な取り組みによって、自己肯定感の高まりや、他人との調和を大切にしようとする姿が見られています。また、多様な考え方を受け入れ、理解する感性を持ち、課題にぶつかってもそれを乗り越えようとする意識が生まれています。

成果

・学校行事や取り組みなど様々な場面で、一人一人が役割を担い行事を成功させることで、自己肯定感の高まりにつながっている。
・意見交流をする機会を多く持つことで、自分とは違う意見と出会っても、その意見を排除するのではなく、多様性を理解し、その中で調和を図る意識が育っている。
・学習や取り組みにおいて、すぐに答えややり方を提示せず、自分たちで考える習慣をつけることで、課題とぶつかってもあきらめず、乗り越えようとする意識が育っている。

課題を残した主な項目

項目	本校	府	全国
自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。	76.5	72	75.2
毎日、同じくらいの時間に寝ていますか。	29.4	35.2	36.3
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	61.2	60.5	63.5

課題

・決まった時刻に就寝できていない生徒が7割を越え、規則正しい生活習慣の確率が求められる。
・学校での学習については、積極的に取り組んでいることに肯定的回答が多いが、計画的な学習を行うなど、家庭学習や、自主学習には進んで取り組めない生徒が多い。
・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答える生徒が約86%いることに対して、「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」と答える生徒が約76%に留まっていることから、意見を受け入れる意識は高まりつつも、自ら発信することには、まだ抵抗を感じている。

課題解決に向けた取り組み

・ご家庭での生活習慣について、お子様とのルール作り・改善・実行をお願いいたします。
・定期テスト前にテスト計画表等を使い、ご家庭と連携しながら具体的かつ、現実可能な計画の立案・実行に取り組んでいきます。
・授業や行事、取り組みの中で生徒たちが意見の発信を行える機会を設け、また、集会等でも生徒たちが前に立てる機会を作り、意見発信への抵抗を減らしていく。

○保護者のみなさんへ(全体を通じて)

今回の調査結果から、授業や行事の取り組みにおいて話し合い活動が充実し、仲間の意見を受け取りながら、自ら問題解決に向かう姿勢を養うことができている。その過程で得られる達成感が、自己肯定感や自己有用感を高め、日々の学校生活の中でも、前向きに取り組む姿勢を生み出しています。学力調査の結果についても、おおむね全国平均と同等の結果となり、中でも「書くこと」「資料の活用」については全国平均を上回る結果となりました。一方で「読むこと」の領域が、全国平均を下回っており、現代の急速なICT化における、活字離れが顕著となりました。本校でも、一人一台のタブレット端末が支給され、徐々に授業や取り組みの中で活用が進んでおりますが、その中でも、朝読書の時間を確保することも並行して行っております。全てをタブレットやICTに移行するのではなく、それぞれの良さを自分自身で取捨選択し、活用していく力が、この変化の激しい社会を生きていく中で必要となっております。本校では、授業や行事の取り組みの中で、人との関わりから、違いを尊重し、時代の流れに柔軟に対応しながらも、自分に合った方法を見つけ、実践する力を身に付けられるよう、教育活動を展開していきます。